

Neurodevelopmental Outcomes of High-Risk Preterm Infants A Prospective Study in Japan

鳥尾, 倫子

<https://hdl.handle.net/2324/4772316>

出版情報 : Kyushu University, 2021, 博士 (医学), 論文博士

バージョン :

権利関係 : Public access to the fulltext file is restricted for unavoidable reason (2)



(別紙様式2)

氏 名	鳥尾 倫子			
論 文 名	Neurodevelopmental Outcomes of High-Risk Preterm Infants A Prospective Study in Japan			
論文調査委員	主 査	九州大学	教授	中尾 智博
	副 査	九州大学	教授	中川 尚志
	副 査	九州大学	教授	二宮 利治

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

主論文は、出生時体重1500g未満の極低出生体重児（VLBWIs）224名を9年間フォローアップし、3歳、6歳、9歳時にIQ、てんかん、ASD、ADHDといった神経発達関連の合併症についての調査を行ったものである。3歳時83%、6歳時67%、9歳時53%を追跡している。9歳時の評価で、知的発達症（IQ<70）21%、てんかん9%、ASD/ADHD 12%といずれも高い有病率であった。また、てんかんは知的発達症に有意に合併していた（知的発達症群44%、正常知能群0%）一方で、ASD/ADHDは知的発達症の有無による発症率の差はなかった。本研究の結果はVLBWIsにおける知的発達症、てんかん、ASD/ADHDの高い有病率を示すとともに、ASD/ADHDと知的発達・てんかんは異なるメカニズムを持つ可能性を示唆していた。

以上の成績はこの方面の研究の発展に重要な知見を加えた意義あるものと考えられる。本論文についての試験はまず論文の研究目的、方法、実験成績などについて説明を求め、各調査委員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行ったが適切な回答を得た。なお本論文は共著者多数であるが、予備調査の結果、申請者が主導的役割を果たしていることを確認した。

よって調査委員合議の結果、試験は合格と決定し、博士（医学）の学位に値すると認める。